巻頭の辞

原山良勁

此の度，駒沢大学は昭和57年10月15日開校100周年を迎えた。保健体育部研究紀要第5号をその記念号として，保健体育部所属の教授諸氏の労作を刊行することとなった。

保健体育部は，昭和24年新制大学として発足以来34年間に，幾多の困難を克服して，現在一般教育の重要な一部門として大学組織の中に位置づけられている。本学の体育小史については，宮沢栄作教授が駒沢大学100年誌に「保健体育部の歩み」として掲載されているので，本号では保健体育部年表と記念事業の中で保健体育部とかかわりを持つ，玉川体育館の完成写真を掲載すると共に，保健体育部教員組織の大学内での位置づけの変遷を，先輩諸氏から伺った内容や，古い資料をつなぎ合せて覚え書きとしたい。何故ならば，筆者の知る限りにおいて，本学の保健体育部は，文科系大学としてはかなり特異な恵まれた位置づけを得ていると思われるからである。

振り返れば新制大学発足時の正課体育は不十分な施設の中，試行錯誤をくり返し，学部・学科の増設，それにともなう受講者数の増加に四苦八苦しながらの21年間で，本学では他の一般教養と同様文学部所属の「体育学研究室」として位置づけられていた。この間，主任教授は月一回の教室会議を開催し，教室の意思は文学部並びに教員会（各学部連合教授会）に反映させた。

この間，昭和36年頃には「保健体育のあり方」が，日本学術会議，中央教育審議会で批判された。さらに昭和46年，中央教育審議会から保健体育の再検討の必要を指摘されたが，大学体育連合等，関係者の努力の結果，現行通りとなった。こうした中で学内では教員組織に関する諸問題，特にタテ割り（各学部所属）かヨコ割り（教養部またはセンター案）か，そして教育体制，研究体制などが検討された。また，この年に各学部間の連絡調整のための全学教授会が発足した。

昭和45年，従来通り文学部所属の一教室ながら「教養第三群」という名称で，はじめて教授会としての議事録を残している。ちなみに「教養第一群」とは現在文学部教授会に所属している文化学教室，自然科学教室，教職課程の三教室を含む名称であり，「教養第二群」とは今日の外国語部のことである。

昭和46年には創立以来所属していた文学部から独立して各学部に準ずる教授会組織として，名称も「体育研究室」となった。全学教授会，種々の委員会にも代表を送り，教授会の意思を直接反映できるようになった。

昭和51年になると，全学教授会において「外国語部，体育研究室の他学部との同列化」が承認された。同時に名称も体育研究室から「保健体育部」と改称した。所属の学生を持たない保健体

育部教授会が独立して，人事権・予算・評議員等，学則上完全に学部体制と同列化したのである。これにより本学における保健体育部の体制は，より望ましい位置づけを得たが，同時にわれわれの教育研究の充実が今後の大きな課題であることは言うまでもない。